

5. 本市におけるネウボウ的取組事例の検証

● 西淀川区保健福祉センター

【取組のねらい】

地区担当保健師が妊婦にとって身近な相談者であることを周知し、地域で安心して妊娠、出産、子育てができることを目的に、平成30年2月からカード「あなたの地域の保健師です！」（以後カード）を配布している。カードには、地区担当保健師の氏名と集合写真を掲載した。また、地区担当保健師紹介は、5月号の区広報誌にも掲載した。

【取組内容：カード配布】

- 母子健康手帳交付時の妊婦面接では、全員にカードを配布している。配布時には、初めて妊娠された方からは、「どんな相談ができるのですか？」との質問もあり、地区担当保健師名を紹介すると「どの方ですか？」等との反応もあった。
- 医療機関からは、地区担当保健師が分かることにより、連絡がスムーズになるため、母子健康手帳に挟んで欲しいとの要望もあり、説明後は母子健康手帳に挟んでいる。
- 母子訪問時の助産師は、養育者が地区担当保健師を知らない場合はカードにより紹介している。

あなたの地域の保健師です！

西淀川区保健福祉センター(西淀川区役所2階)では、お子さんの身長・体重測定や子育て相談など健康相談コーナーを毎日開いております。また、お電話での相談も受け付けておりますので、お気軽にご利用ください。

【地域担当保健師】(平成30年4月現在)

★受付時間
区役所開庁日 9時～17時30分
(土・日・祝日・年末年始は休み)

★お問い合わせ先
大阪市西淀川区保健福祉センター
保健福祉課(地域保健活動)
【西淀川区役所2階 25号窓口】
☎: 06-6478-9968

あなたの担当保健師は()です

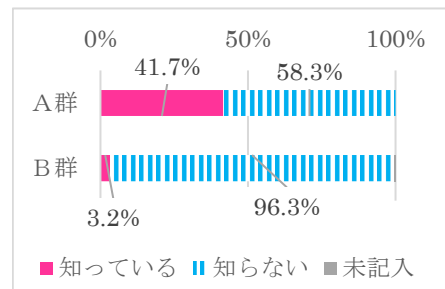
【実績・評価など】

平成30年11月から保健師・助産師による家庭訪問や乳幼児健康診査等の母子保健事業において、カードや地区担当保健師の認知度についてアンケート調査を実施中である。

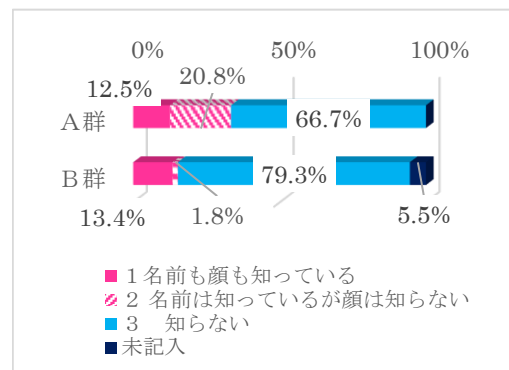
(アンケート期間：平成30年11月～平成31年2月)

平成 30 年 2 月以降に妊婦面接を行い出産した（カードを配布した）養育者（A 群 24 人）とカードを配布していない養育者（B 群 217 人）についてアンケート調査結果の比較を行った。（12 月 4 日時点）

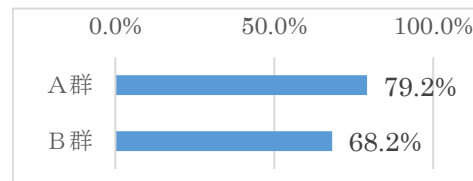
- ✚ カードを知っていると答えた方は、A 群 41.7%であり、B 群 3.2%であった。



- ✚ 地域の担当保健師の「名前と顔」又は「名前」を知っている方は、A 群 33.3%、B 群 15.2%であった。



- ✚ 保健師に相談したいと答えた方は、A 群 79.2%、B 群 68.2%で、A 群、B 群ともに「子育てのこと」「子どもの発育発達のこと」との回答が多かった。



【課題】

アンケート調査結果からは、地区担当保健師の認知度は低い状況であり、カードの配布方法に工夫が必要であると考えます。当区では、本年度から区内産科医療機関と保健福祉センター（地区担当保健師・子育て支援室）との情報交換会を年 2 回開催し、医療機関とも連携した妊婦支援の取組を始めたところである。従来は、ハイリスク妊産婦の支援のため各関係機関と個別ケースを中心としたネットワークを構築していたが、全妊婦を対象に妊娠期からの相談支援のためには、産科医療機関や母子訪問指導事業委託の助産師、子育て支援関係機関との幅広い連携が必要であると考えている。

● 港区保健福祉センター

港区の平成30年度からの新たな取組

(平成29年度に区長と横山美江大阪市立大学大学院教授との合意のもと、母子保健事業の再構築を実施)

■担当保健師の周知

【取組のねらい】

- ・妊娠期から地区担当の保健師がいつでも相談できることを知らせ、保健師を身近な相談先として認知していただく。
- ・妊産婦健診時などで受診した医療機関にも地区担当保健師名を知っていただき、連携をとりやすくする。

【取組内容】

- ・母子手帳の裏表紙中面の連絡先記入欄に地区担当保健師の氏名を書いたシールを貼り、妊婦面接時に紹介するとともに、携帯電話への登録を案内する。

【実績・評価など】

- ・「わからないことがあったら電話していいですか」などの好意的な反応が多い。
- ・「シールを見て電話をしました」と、妊産婦健診についての問合せがあった。
- ・取組の説明のために訪問した産婦人科の師長から、「すごいですね。連絡しやすくなります。」との声をいただいた。
- ・地区担当保健師のシールを貼る前と後で保健師の認知度等がどのように変わったか、30年10月～31年4月の3か月健診対象者にアンケートを実施予定。

連絡先メモ	
経産婦	名 姓 住所 電話
妊産婦	名 姓 住所 電話
小児科	名 姓 住所 電話
産 科	名 姓 住所 電話

● 妊娠・出産・子育てに関するご相談は…
 ● 港区保健福祉センター ☎06-6576-9968
 ● ()地域の担当保健師は
 ● * ()です！(年 月)
 ● * ()です！(年 月)
 ● * ()です！(年 月)

■ポピュレーションアプローチ ～①ハーフバースデー記念としての来所を促進～

【取組のねらい】

- ・常設相談コーナーを利用する機会を増やし、保健師に気軽に育児相談ができるようにする。

【取組内容】

- ・常設相談コーナーにハーフバースデーの記念写真撮影ができるよう飾りつけを行った。
- ・来所時には、あわせて身体計測や育児相談を勧めている。
- ・3か月健診時に「ハーフバースデーの記念に計測を」との案内・PRをしている。

【実績・評価など】

- ・記念写真撮影を目的に来所し、計測と育児相談をしている人が増えている。
- ・コーナーを常設していることで、6か月時に限らず1歳・2歳・3歳の利用者もみられる。

バースデー記念の計測利用者(8～11月)

- ・ハーフバースデー(6か月) 計19人
- ・ハーフバースデー以外(1・2・3歳) 計17人



■ポピュレーションアプローチ ～②妊婦教室への父親の参加を促進～

【取組のねらい】

- ・妊娠期から夫婦で協力して出産や育児に臨めるようにする。
- ・保健師が妊娠期から父親を含めた家族に関わる機会を増やす。

【取組内容】

- ・妊婦教室（3回コース）のうち1回を日曜日の開催とした。
- ・父親も一緒に参加して、沐浴やおむつ交換、衣服の脱ぎ着せ、妊婦疑似体験などを実習する内容としている。

【実績・評価など】

- ・講座の満足度（10点満点）は、プレママ8.9点、プレパパ8.8点となっている。
- ・参考になった内容として、「沐浴や赤ちゃんのお世話体験」と答えた人が最も多い（プレママ92%、プレパパ85%）。
- ・「夫も参加できるように日曜開催だったのがよかった」、「育児をするイメージがしやすくなった」、「夫婦で協力して育児をしていこうと思った」等の意見をいただいている。

妊婦教室の参加者数（4月～11月。1回あたり）

平成29年度（日曜教室の開催なし）	7.6人
平成30年度（日曜教室含む）	11.2人
30年度の日曜教室参加者数（1回あたり。パートナー含む）	41.5人



■ポピュレーションアプローチ ～③乳幼児健診への父親の来所を勧奨～

【取組のねらい】

- ・できるだけ児の父親にも会う機会、話を聞く機会を持ち、子どもの成長発達や子育てのことを夫婦と一緒に考え、不安なく対応できるようにする。

【取組内容】

- ・乳幼児健診の案内通知や区のHPに、「お子様の成長の節目にあたる大切な健診です。お父様もぜひ一緒にお越しください。」の一文を記載し周知している。
- ・健診の最後の個別面接時に、父親にも子どもの発育発達や子育てで気になることはないかを聞いている。

【実績・評価など】

- ・乳幼児健診に来所する父親が増加傾向にある。

乳幼児健診の来所者に占める父親の割合（29年度は担当職員の印象）

	29年度	30年度(8～11月)
3か月児	10%	11.3%
1歳6か月児	5%	11.2%
3歳児	5%	7.0%